

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホーム さくら「第1ユニット」(左)		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1603-12		
自己評価作成日	平成27年 1月10日	評価結果市町村受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・四季に合わせ行事や飾り付けを行い、明るく楽しい生活を心がけている。 ・歌を聴き、唄う事でストレスを溜めない楽しめる場を作っている。 ・地域の保育園や高校と交流を行っている。 ・広い敷地に中にゆったりとある施設で山並み等の眺めも良い。 ・利用者の思いやニーズを関わりの中で導き出し、生活の質を向上する支援が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>緑豊かな環境の中にある事業所である。隣接する法人が、介護に関してはもとより、イベント時に積極的にバックアップしている事は、家族にとっても大きな安心に繋がっている。イベント時には、利用者の家族をはじめ、地域の人々が訪れ、楽しいひとときを過ごしている。また今期は、「地域ふれあいサポート」というイベントを公民館で行っており、地域の住民に対して福祉サービス全般に関しての情報発信の役割を積極的に担って行くという姿勢が窺える。介護計画作成時には、利用者から丁寧に要望を聞き取っている事が確認できる。職員は、「いくつになっても自分らしい生活をしたい」という理念を実現する為に、利用者一人ひとりの基本情報を細かく記録しており、全員で共有している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者のできる事、やりたい事の声を受け止め危険がない限り行動の制限をせず、自由に活動してもらっている。	「いくつになっても自分らしい生活をしたい」を理念に掲げている。理念を実現する為に、職員は、利用者の基本情報から入居するまでの生活歴を把握する事に重点を置いている。毎日の会話の中から得た情報を織り交ぜながら、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の高校生、保育園児との交流など地域の方の協力を得て交流に繋げている。	法人のグラウンドは、日頃から地域住民に開放しており、さくらまつりや夏祭り、鬼火焼き、文化祭にたくさんの来訪者がある。また、高校の茶道部や保育園児との交流も行われている。地域の合同運動会に事業所から見学に出掛けており、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーである民生委員、消防団長、地区長の代表者に伝えている。利用者の家族の方にも「さくらだより」にて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で施設の状況、活動報告を行っている。委員の方からは、提案、意見、助言など頂いている。	3ヶ月に1回規程のメンバーで開催している。利用者、職員の状況はもとより、事故防止についての取組みや職員から研修報告も行っており、様々な議題が取り上げられている。家族から「家族会」を作りたいという要望があり、実現にむけて計画している段階である。	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1度の開催が求められており、規程に沿って実施することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂いている。会議の議事録や利用者の異動届けなど必要に応じて報告している。	日頃から行政職員と情報交換を行っており、各種手続きの他、災害時の避難先についてのアドバイスを受けている。今年度は公民館にて「地域ふれあいサポート」と称する西海市の市民を対象とした取組みを法人が行っており、行政との協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緑葉会のマニュアルを基に、職員間での勉強会を行い、身体拘束の見直し取り組みを検討している。夜間帯については、玄関の施錠をしている。	倫理規定に身体拘束をしない事を謳っている。また、職員は年に1度マニュアルを基に身体拘束についての研修を受講しており、認識を新たにする機会となっている。現在、四点柵を用いているケースについては承諾書を得ており、毎月のカンファレンスで検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設勉強会で取り上げ、共通認識を持って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の入所者が利用している。施設内にも成年後見制度についての冊子を置き、自由に活用できる体制を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書類にて内容を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望箱を設置している。利用者家族の面会時の会話の中で意見、要望を収集して職員で対応している。	意見等の相談窓口は重要事項説明書に記載しており、家族の面会時には要望を聞き取っている。事業所での利用者の様子はさくらだよりを作成し、郵送している。イベント等重要事項は、家族に意向を尋ね反映している。ただし、意見や要望を聞き取れる家族が一部となっている。	利用者へより良いケアを行う為には、面会頻度が少ない家族からも要望や意見を聴取し、反映するための更なる工夫・取組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設次長が週2回から3回訪訪している。また、月1回の緑葉会施設会議に管理者が出席し、意見や提案をしている。	職員は管理者に気づいたことや相談、要望など日頃から伝えている。互いのコミュニケーションは良好で、職員の要望で冷蔵庫やプリンター等を購入した実績があり、職員の意見、要望が迅速に反映されている事が確認できる。また、管理者で解決できない案件は法人に相談する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトについては、職員の希望休を取り入れ作成している。また、施設次長が訪訪時に職員の意見、要望を聞き解決策も検討してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足により、外部研修受講が十分にできなかった。しかし、職員が課題を決め勉強会を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は、同業者の家族会に参加、施設内の見学を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ICFシートを活用して本人の状況や状態に合わせてコミュニケーション図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を傾聴し、困っている事不安を取り除くように説明、解決するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの要望を共有し、その希望に合ったサービスを利用できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事を見極めこちらの要望を一方的に押し付けるのではなく、一人ひとりと向き合って信頼関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一度の収支報告にて、本人様の状況を報告し、家族に今の状態を知らせる事により安心してもらえるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	両ユニット間で行き来をして馴染みの関係を築くようにしている。	両ユニットに仲の良い友人がおり、互いに行き来している利用者がある。家に帰りたいという要望には、自宅近くまでドライブし支援している。家族の訪問もあり、利用者との関係が途切れないように職員が支援している。本人の馴染みの人や場の基本情報を大切にしており、知り得た情報は、丁寧に書き加えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの行動に気配り声かけ、傾聴することによりスタッフとの関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院したり、退所しても、見舞いや訪問して話を聞いて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の不安に寄り添い、解決できる様、利用者と話している。	管理者は、利用者に一日を気持ち良く過ごしてもらえるよう、朝は明るく元気にあいさつすることを職員に指導している。職員は利用者の生活歴を把握し、話す内容を否定しないことが、支援するために重要であると認識している。発語困難な場合は、筆談を利用している。得た情報は、経過簿や連絡ノートに記載し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との日々のコミュニケーションの中から情報を聞き出し、支援に活かそうとしている。本年度は、同業者の家族会に参加、施設内の見学を実施した。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で何をしているか等、訪室したり、会話の中で探ったりバイタルチェックしたりと、多方面から利用者の様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間で問題があれば連絡ノートを活用し、意見を出し合い、解決している。計画作成時には家族の意向を聞いている。	職員は利用者毎に担当制となっており、本人の要望を聞き取り、計画を作成している。作成した計画に沿って支援を実施したか否かを「介護サービスチェック表」に記録して確認し、モニタリングに繋げる仕組みがある。ただし、家族の意向等が確認できる介護計画書の一枚目が添付されていない。	利用者の毎日の生活について、家族の要望を聞き取り、介護計画に反映するためには計画書の一枚目が重要であり、今後は添付し、支援に繋げることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録簿やスタッフ間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望があればスタッフ間で話し合い、要望に沿えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつも自分らしくの理念の下、一人ひとりが楽しく毎日過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期受診はもちろん、その日の体調不良時には電話連絡後、受診できている。	ほとんどの利用者が協力医療機関を主治医としており、受診は看護師が支援しており、事業所では薬物を保管している。市外の医療機関については家族に同行を依頼する場合がある。皮膚科、眼科は看護師が付き添っている。受診後、経過簿や連絡ノートに変化を書き、事業所内で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等または身体の傷等は報告対応出来ている。必要時はすぐに受診対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフも見舞いに行き、その都度情報を頂いている。また、相談員との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「食事が全介助であっても、経口から食事が出来る間」とはなっているが、その先の取り決めが必要な為、絶えず家族等に説明し、話し合っている。	「重度化した場合の指針」を作成しており、利用開始時に、本人・家族に説明している。事業所内の勉強会では職員に周知している。現在、看取りは行わない方針であり、「経口での食事が出来る間」は、事業所で受け入れるとしているが、指針への明示はこれからである。	「経口での食事が出来る段階では、事業所に対応する」方針を「指針」へ明示し、利用者・家族に説明することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119番通報、救急車の呼び方について、マニュアルにそって、月に1度訓練を行い、訓練も実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な火災訓練も全スタッフが参加している。地区の消防団への声掛け、コンセントの掃除、使わない時のコンセントロック等も行っている。	職員は、「消防自主点検チェック表」をもとに、ガスの元栓、給湯器配管の劣化の有無、コンセント等のチェックを行っている。今年度の避難訓練は、夜間想定で消防署立会いのもと、3月に予定している。風水害に対しては、避難場所を設定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け時には言葉遣いに気を付け、プライドを損なわないように心掛けている。居室に入る時も、本人の了承を得ている。	本人が他の利用者に聞かれたくない話は、居室で聞いたり、掃除をする際は必ずノックし「掃除をさせて下さい」と声を掛けて入室するなど配慮している。管理者はトイレの介助時にはドアを掛けるよう職員に指導を行っている。職員は入社時に、守秘義務に関する誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味、特技等を把握し、会話の中から汲み取り、本人の自己決定を優先し、職員の都合を押し付けないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側に感情を押し付けるのではなく、本人の状態、状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをする際に、一言「この服で良いですか？」等と声掛けを行っている。意思表示の出来ない方には、身嗜みに注意して洋服を選んでいる。また、理美容の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料や菜園で収穫した食材を利用し、一緒に準備し、楽しく食事をしている。	通常はホーム内で調理しているが、訪問時は一時的に本部の厨房で調理し提供していた。事業所の周りに菜園があり、収穫した野菜を使った献立を楽しむこともある。毎月の誕生日や敬老の日には、特別メニューを準備している。正月におせちを作ったり、手作りおやつで家庭の温かみを味わってもらおう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立をチェックしてもらい、栄養バランスを考慮している。また、便、尿量なども記録し、水分不足にならないように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間には義歯の洗浄も必ず行っている。また、月2回歯科医による口腔ケアも行い、必要に応じて歯科受診も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表にて、時間、状況を見て声掛け、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	職員は排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握して早めの誘導を行っている。利用開始時におむつやリハビリパンツだった利用者が改善した事例がある。夜間のみポータブルトイレを使用する際は使用後、その都度洗浄している。また、ポータブルトイレは日中、屋外に置き臭気に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護と連携を取り、排便のリズムを整え、水分補給、食物の工夫、運動の声掛け等、自分で排せつできるように支援している。それでも排便がない場合は下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調、気分、希望を優先し、気持ちよく入浴出来るように清潔にし、お湯の温度にも気を付けた支援を行っている。	入浴は2、3日に1回の割合で行っている。6月から9月の汗をかく季節には、衛生面を配慮して足浴も行っている。体調の悪い利用者には、清拭で対応している。車椅子利用者も浴槽に浸かっており、体調等に配慮し、シャワー浴で対応する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて休息したり、体操、散歩等活動する事で、夜間の睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理、指導の下、服薬管理を行っている。また、誤薬防止のため、二人体制で確認し、与薬時には名前を読み上げ、再度の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに出来ることをして頂くことで生活に変化を持たせ、日々楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足で、戸外への外出が出来ていない。	天気の良い日は法人のグラウンドを散歩している。事業所の周りは春には桜が、初夏には藤が咲き、利用者の目を楽しませている。また、菜園では手入れや収穫等利用者と一緒に作業を行っており、外気に触れる機会を作っている。全利用者で弁当持参でのドライブなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散髪や買い物支援等でお金を使えるようにしている。管理が難しい利用者は施設側で金庫を利用し、厳重に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方が持参された年賀状を書いたりする事を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間はいつも清潔に保てる様、職員の役割分担を決め、実行している。リビングや廊下は季節感を表現する飾りを行っている。	リビングから法人の広々としたグラウンドが見渡せ、日差しも明るく気持ちの良い空間となっている。随所に季節の花を飾り、貼り絵などを掲示して家庭的な雰囲気となるよう工夫している。洗面所は、車椅子のまま使えるように設置しており、洗濯室は外部から見えないため、すっきりとした心地よい環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者は近くなるように座席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と話し、自宅で使用していた物を持ち込んでいただき、住み慣れた環境に近付けるよう努力をしている。家族写真を見える場所に置いている。	日当たりが良く明るい居室である。ベッドは畳ベッドやパイプベッド等利用者の好みで選べ、配置も様々である。家族の写真を飾ったり、仏壇を置いている利用者もいる。室内の収納庫は、使い勝手がよく室内の物が散乱しないよう配慮した設計となっている。掃除は、朝職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂き、出来ない部分を支援する事で、出来る範囲での自立を促すようにしている。出来る部分でも体調やADLを考慮し、見守りや支援で安全を確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホーム さくら「第2ユニット」(右)		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1603-12		
自己評価作成日	平成27年 1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ナースコール・医療ベッド・オムツの検討など、設備の充実に向けて取り組んでいる。
・月2回の歯科医による口腔ケアを行っている。
・地域の保育園や高校と交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者のできる事、やりたい事の声を受け止め危険がない限り行動の制限をせず、自由に活動してもらっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の高校生、保育園児との交流など地域の方の協力を得て交流に繋げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーである民生委員、消防団長、地区長の代表者に伝えている。利用者の家族の方にも「さくらだより」にて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で施設の状況、活動報告を行っている。委員の方からは、提案、意見、助言など頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂いている。会議の議事録や利用者の異動届けなど必要に応じて報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緑葉会のマニュアルを基に、職員間での勉強会を行い、身体拘束の見直し取り組みを検討している。 夜間帯については、玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設勉強会で取り上げ、共通認識を持って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の入所者が利用している。施設内にも成年後見制度についての冊子を置き、自由に活用できる体制を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書類にて内容を説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望箱を設置している利用者家族の面会時の会話の中で意見、要望を収集して職員で対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設次長が週2回から3回訪訪している。また、月1回の緑葉会施設会議に管理者が出席し意見や提案をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトについては、職員の希望休を取り入れ作成している。また、施設次長が訪訪時に職員の意見、要望を聞き解決策も検討してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足により外部研修受講が十分にできなかった。しかし、職員が課題を決め勉強会を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は、同業者の家族会に参加、施設内の見学を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成、評価することで、入居者本人のことを、毎日様子観察して、より良いサービスに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時に要望などを聞き入れ、ケアプランを作成し、確認をして頂く関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の要望、家族の要望、スタッフの意見を取り入れた支援、サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の下ごしらえ、味見、洗濯物たたみ、簡単な畑の作業などできる事をしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、知人の面会時は本人居室にて過ごしてもらい時間を大切にしている。また、寂しくないようにコミュニケーションを取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型の特徴を活かし、昔馴染みの利用者同志の関係、また、地元の病院に受診したりと変わらない支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左・右ユニットの行き来、同じユニット内同志での会話、唄、体操などして、楽しく過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、本人・家族・ケアマネ(退所先)より意見を求められた際には快く協力させてもらっている。退所先に訪問する際には様子を伺う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの何気ない言葉からも、思いや希望をくみ取っている。言葉だけでなく表情、仕草から本人本位の立場で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より話を聞いたり、本人との会話の中より汲み取り支援に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴等に合わせ一人ひとりに合った一日を過ごしてもらっている。心身状態が安定されている時の本人の言動を知る事で不穏状態を早く気付く事ができる。できる事は行ってもらおう。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が3ヶ月に1回見直しを行い家族にも意見を伺っている。スタッフにも意見を求めカンファレンスを行っている。本人の要望、意見は日々記録している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表を作成し、ケアプランに添って支援が行えているか確認できるようにしている。また、見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズを全スタッフで共有し、本人本位でのそれぞれの意見を求め新たなサービス・支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、スタッフ不足のため買い物支援など外出が行えていない。しかし、近隣の保育園児との交流は行い、楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市外の場合は家族対応にて受診して頂いている。家族対応ができない場合のみ看護対応にて受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人の表情や体動に変化があれば、看護へ連絡し相談の上、受診して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を把握し必要な情報を提供している。入院中も家族・病院とも情報交換を行い、受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事摂取が出来ている間は、看護、家族、医療関係との連絡を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より事故がないように心掛けている。また、マニュアルも作成している。本年度は、初期対応の実技訓練は、実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に数回消火訓練を実施している。本年度は実施していない(2月実施予定)。対策として、ガスレンジのスイッチのロック・差し込みコンセントの周りの清掃を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄支援の際、プライバシーを配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、手伝いなどをお願いする時は、本人の同意を得て行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務を優先するのではなく、利用者が余裕を持って、行動できるように本人の状態、状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせての衣替えや体調に合わせての重ね着を支援している。また、天候に合った好きな洋服を選んで着用するよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜など季節に合わせた料理を作り、利用者に味見をしてもらい、利用者と職員と一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各職員が献立を作成し施設の栄養士に見てもらい助言を頂き、次の献立に活かしている。また、体重、食事、水分の量を記録し調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯のある方には本人にて磨いてもらった後、職員にて仕上げの磨きを支援している。夜間に義歯の洗浄消毒を行っている。また、毎月2回歯科医による口腔ケアを行い、指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表を付ける事でその人の排尿、排便の時間の間隔を知り、失禁等が減るように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声掛けやきざみ、おかゆ等食事の工夫を行い、便が出ない時は、看護に相談する等便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間はスタッフが決めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせてベッドにて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わったら申し送り後、経過記録にて変化がないか診ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人のしたい事、出来ることを出来るだけしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの不足により、散歩、外出がほとんど出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で一括管理している。購入希望の品があれば本人家族確認の上、支払代行、購入支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に手紙や贈り物がある際、可能であれば直接電話を掛けていただく。又、本人の希望時は、家族への電話も支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える場所に季節の花々を植え、共に成長を見守り楽しんでいる。又、行事後にはリビングに写真を貼り、話題提供する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファの他、椅子を設置。必要時は気の合う方と共に過ごせるように椅子の位置を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には床に転倒物が無い様、配置に工夫しつつ家族の写真やお気に入りの人形を置く等して、安心できる空間づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場やトイレのドアには、大きく見えやすい文字で表示している。転倒のリスクが高い方がリビングでくつろぎ、常にスタッフが見守りできるよう、ソファを設置している。		